53ページからの前ノ川国有林の問題については，下記のような意見書が，大阪営林局，林野庁に提出されています。

平成元年４月24日
(財)日本自然保護協会
会長　沼　田　　眞

大塔山系前ノ川国有林の保護についての意見書

紀伊半島は気候温暖で，山地の年間降雨量は4,000㎜前後に達し，全域にわたって多種類の植物がきわめて良く繁茂する地域である。

ことに半島の中南部にそびえる大塔山（1,122ｍ）山系は，和歌山県本宮町，大塔村，古座川町，熊野川町に属し，川湯温泉が湧出する大塔川（熊野川の支流）や富田川，日置川，古座川など紀伊半島の主要な河川の源流地帯にあたり，ここには，生態学的に見てきわめて貴重な常緑広葉樹（照葉樹）の自然林が残っている。この森林地帯の保護に当たり，当協会は昭和48年（1973年）９月７日，下記の理由を列記して黒藏谷国有林（650ha），笹ノ瀬国有林（100ha），大杉大小屋国有林（300ha）及び前ノ川国有林（500ha）の広大な常緑広葉樹林（照葉樹林）を保全するよう強く要望した。

(1)植生帯の分布が特異である。たとえば通常海岸低地に分布するウバメガシ林が高標高地にまで見られたり，他方，高標高地に分布するシャクナゲが，標高50ｍの渓谷沿いにまで見られたりする。

(2)熊野杉の母樹と考えられる天然スギの原生林が残っている。

(3)この地域の常緑広葉樹林は，多様な樹種からなる暖温帯多雨林の性格を特ち，わが国では，他に類例をみない複雑な構造を特っている。

(4)生物地理学的に見ても，わが国中部以北の山地帯以上の高地や，亜熱帯性の動植物の種類が入り混じり，きわめて特異な地域である。

ところが，大阪営林局は，地元住民や多くの学会，研究者等のたびたびの保護要望を考慮せず，黒藏谷国有林，大杉大小屋国有林及び笹ノ瀬国有林の伐採計画を決定し，昭和50年頃からその源流部の500haを伐採した。

当協会のその後の継続調査によると，「Y字谷」とまで呼びならされていた深い廊下状の渓谷は荒廃し，下流部の貴重な渓畔植生は大きな打撃を受けている。またこの地域では，冬期にも活動が見られるニホンツキノワグマも遂に絶滅したと考えられており，実に憂慮すべき事態になっている。また急峻な地形と著しく多い降雨量のため，山腹や渓谷沿いの荒廃は目を覆うばかりである。これは，造林適地の選択を誤った無謀な伐採に基因したものであり，すでに植林した地域においても山腹は崩壊しつつある。

前ノ川国有林はすでに伐採された黒藏谷・大杉大小屋両国有林とは水系を異にする地域にあるが，源流部の森林としてはこれらは同等の価値を持つ貴重な自然林であり，暖温帯多雨林の代表的な森林として後世に継承されるべきものである。またこの森林地帯が伐採されると地元大塔村を代表する自然林が消滅するため，最近では村民の有識者からも保全を要望する声が急速に高まりつつある。前ノ川国有林（1,300ha）は，その大半が林種転換され人工林となっているが，幸い今のところ源流部には400ha前後の自然林がまとまって残存している。したがってこの森林については，現状で伐採を中止し，森林生態系保護地域（追加）ないし遺伝子資源保存林として，将来にわたり厳重に保護する措置をとられるよう要望する。